

石川県七尾美術館だより

平成21年7月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第58号（夏号）



①



②



③

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

「今、よみがえる天才放浪画家一山下清展」

- | | | |
|-----------------|----|-------|
| ①「長岡の花火」 | 貼絵 | 1950年 |
| ②「自分の顔」 | 貼絵 | 1950年 |
| ③「ロンドンのタワーブリッジ」 | 貼絵 | 1965年 |

※①②③及び2～3頁の画像全て©清美社



展覧会紹介

平成21年7月3日(金) ~

9月27日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「今、よみがえる天才放浪画家

山下清展」

8月1日(土) ~ 9月27日(日)

【会期中無休】

◆第一・第二・第三展示室

●プロローグ●

山下清は大正十一年(一九二二)東京に生まれ、三歳の時重い病の後遺症のため、軽い言語障害になりましたが、十二歳頃から貼絵の制作に才能を発揮し、十五、十七歳で発表した貼絵が多くの著名画家たちに称賛されました。しかし、障害ゆえの孤独感と兵役への恐怖にさいなまれていた清は、十八歳の時に突然姿を消し、三年間放浪を続けました。その後も、折に触れて旅に出るようになり、その足跡は国内のみならずヨーロッパにまでおよびました。



生涯にわたって旅を続けた清は、いつしか「放浪の画家」といわれ、その生涯は映画やテレビ番組にもなり、日本で最も親しまれている画家の一人となりました。しかし、彼の真実の姿を知る人は、意外に少ないのではないのでしょうか。彼はどんな作品をどのように制作したのか？そして、なぜ天才と呼ばれるようになったのか？。実は彼はほとんどその場で描かず、旅から戻った後に驚異的な記憶力でイメージを再現し、数々

の名作を完成させたのです。本展では、清が生涯にわたって制作した貼絵をはじめ、水彩画やペン画、版画や陶芸などの作品約一四〇点を七つのテーマで紹介し、「芸術家・山下清」の画業を展望します。また、彼が旅路で愛用したりユックサックやゆかた、絵日記帳などの資料約三十点もあわせて展示し、「人間・山下清」の生涯をたどり、その実像に迫ります。

◆貼絵への出口◆

「貼絵に息づく昆虫たち」

子どもの頃、言語障害などが原因で周囲の子どもたちにいじめられ、一人で遊ぶことが多かった清ですが、虫捕りは弟たちと楽しんでいたといわれています。

初期の作品には昆虫などを題材にしたものが多く、それらは色紙を大きくちぎって貼り付けた、子どもらしい作品でした。

「貼絵になった学園生活」

十二歳で千葉県の養護施設「八幡学園」に入ると、題材は昆虫たちから日々生活する学園の様子に移り、人物が登場するようになります。学園生活の中で貼絵と出会い、ようやく「友達」にも巡り会えたのかも知れません。

また、貼絵のテクニッ



「ともだち」貼絵 1938年

クも驚異的な進歩を遂げ、色紙を細かくちぎり、質感までも表現できるようになっていきました。

「開花した才能・静物画」

昭和十三年(一九三八)、学園の子どもたちの小展覧会で、安井曾太郎ら一流の画家たちが清の貼絵を見て感嘆しました。高い評価を得た清は、この頃から静物画にも取り組むようになり、本格的な作品作りの基礎を築いていきます。

◆心の風景 放浪時代の清◆

「放浪へと導いた戦争」

清は「(省略)もうじき正月で二十一歳になると兵隊検査がある もし甲種合格だったら兵隊へ行つて散々殴られて 戦地へ行つて怖い思いをしたり 敵の弾に当たつて死ぬのが一番おっかないな」と思っていました。と語っています。徴兵されることへの恐怖感から、放浪の旅に出たともいわれています。

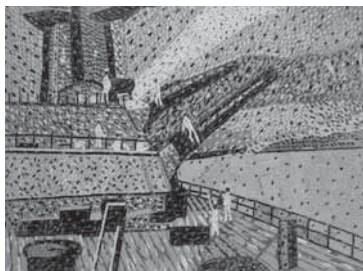
また、「みんなが爆弾なんかつくらないで きれいな火花ばかりつくっていたら きつと戦争なんて 起きなかつたんだな」という言葉を残しました。

「清が歩いた日本」

リュックサックを盗まれたり、海で溺れたり、波乱万丈だった放浪の旅：清は旅先での様々な出来事を、絵日記風に鉛筆でも描きました。清の歩いた足跡を知る上で、貴重な資料ともなる日記などもご覧ください。

「色褪せぬ才能・放浪期の貼絵」

清には人並み外れた記憶力があり、脳裏には、実際に見た風景や出来事と、それを元に作られた



「軍艦」貼絵 1938年

貼絵と、二つのイメージがありました。また、旅先で制作していたと思われるがちですが、実際にはほとんど学園や自宅へ戻ってから描いたのです。清の記憶は克明に旅の様子を捉えていました。

貼絵「金町の魚釣り」では、川面に映る人物や空、雲などが精巧に表現され、高い完成度をみせています。



「金町の魚釣り」貼絵 1950年

◆芸術家・山下清の全仕事◆

～日本のゴッホ・山下清～
～カンヴァスに彩られた油彩作品～

「日本のゴッホ」と称された山下清。生涯、ゴッホの画集を大切にしていた清は、学園時代からゴッホの作品を参考に貼絵や油彩画を制作しました。彼がゴッホの作品から何を感じとっていたのかを探ります。

また、数こそは多くないものの、清は独自の技法で油彩画を描いています。点描画のようなタッチで、貼絵を思わせる作品もありました。

～血絵にみる天才画家の片鱗～

清は貼絵や油彩などで、血絵にも挑戦しています。皿の曲面を生かした完成度の高い作品からは、天才画家の片鱗がみえてきます。

～豊かな色彩感覚が活かされた陶器～

昭和三十一年（一九五六）頃より、陶器の絵付けを創作活動として始めました。

マチエール（素材）の違いで、まったくイメージの異なった作品に仕上がる陶



「大文字焼風景 牛ノ戸焼」壺 1956年

器の絵付け作業に興味を持ったのでしょうか、清は積極的に取り組みました。その数は数百作品ともいわれています。

壺「大文字焼風景」は、見物の観衆の姿や美しい山並みが、壺の側面に大パノラマで展開され、力強い作品に仕上がっています。

～点と線の芸術・ペン画～

晩年は、失敗が許されないフェルトペンで、ペン画にも精力的に取り組みました。鉛筆のように、力の強弱で線の太さや色の濃さといった筆感を調整できないフェルトペンを使い、下描きもせず、色の濃淡や影といった細かい表現を、点と線で巧みに描きました。

ペン画「東京オリンピック」は、スタンドを埋め尽くした多くの観衆を、一本のフェルトペンで描いたペン画の代表作です。



「東京オリンピック」ペン画 1964年

◆修復保存プロジェクト

～現代に甦る清の代表作～◆

清の貼絵作品は、色紙の性質と、存命中より展覧会が繰り返されてきたことにより、劣化が進んでいます。平成十四年（二〇〇二）の生誕八十周年を機に、作品を後世に伝えるため修復及び保存プロジェクトが発足されました。修復過程のみならず、修復作業によって甦った作品と、その驚くべきテクニクなども紹介します。

◆山下清・ヨーロッパへの旅◆

昭和三十六年（一九六一）、飛行機で海外旅行など夢のまた夢という時代、清は初めて自発的に

スケッチブックをカバンに詰め、四十数日間ヨーロッパの旅に出掛けました。

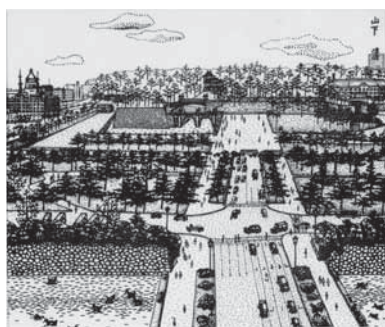
初めて観るヨーロッパは異国情緒にあふれ、そのすべてが新鮮で感動的なものでした。国内では旅先でほとんど絵を描かなかった清でしたが、ヨーロッパでは次々と観光地を訪れ、そこでスケッチも行いました。

ヨーロッパの作品群は、遠近法や点描画としての表現力、超人的な色彩感覚など、成熟した清の芸術性が如実に表れた、クオリティの高いものになっています。

◆遺作・東海道五十三次◆

清は晩年、「東海道五十三次」に挑みました。しかし、旅の起点・日本橋へ到着すると「こんなにこちゃこちゃしている所ではスケッチはできない」と場所を移し、「皇居前広場」を選んだのでした。約五年の歳月をかけ、京都までの取材スケッチを終え、次々に素描を仕上げますが、軽い眼底出血を起こし制作を一時中断、静養に入りました。二年後、体調も回復しつつあった清は、家族との夕食後の語らいで突然脳出血を起こし、「今年の花火見物はどこに行こうかな」という最後の言葉を残し、昭和四十六年（一九七一）七月十二日早朝、最後の一人旅へ出掛けたのです。享年四十九歳でした。

清の死後、アトリエの押入れの中から、未完成と思われていた京都までの残り十三枚が発見されました。きつと、「絵だけは仕上げておこう」と、家族に内緒で描き続けていたのでしょう。こうし



「皇居前広場（東京）」版画 制作年不詳

て清の東海道五十三次は、貼絵にこそなりませんでした。全五十五点が遺作という形で完成したのです。

◆映像に観る山下清（記録映画）◆

清の貼絵制作風景からは、細かい作業を繰り返す、どのように貼絵が創られているのかを知ることができると同時に、放浪中のエピソードを語る清の肉声も聞くことができます。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	300円	700円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

①ギャラリートーク（高校生以上は要観覧券）

日時：8月23日（日）午前8時45分～9時45分
講師：山下浩氏（山下清作品管理事務局）
対象：小学校高学年以上 30名（先着順）

②特別講演会（聴講無料・申込不要）

日時：8月23日（日）午後2時～3時15分
講師：山下浩氏（山下清作品管理事務局）
演題：「家族が語る山下清」

③貼絵ワークショップ（高校生以上は要観覧券）

（小中学生対象）貼絵の「花火」を打ち上げよう！
日時：8月9日（日）午後1時30分～4時
（高校生以上対象）貼絵で「自画像」に挑戦！
日時：9月13日（日）午後1時30分～4時
講師：出崎哲弥氏

（中学校美術科教諭・七尾美術作家協会会員）
定員：各15名（先着順）

参加費：各300円

※①③共に、7月22日（水）午前9時より電話受付。

第68回七尾港まつり協賛

「池田コレクション名品展」

7月3日（金）～26日（日）

◆第一・第二展示室



「池田文夫氏像」北村西望

当館には現在長谷川等伯作品以下、所蔵・寄託品をあわせて約六〇〇点の作品が保管されていますが、その中で質・量ともに大きなウエイトを占め、当館所蔵品の代表格といえるのが「池田コレクション」です。

「池田コレクション」とは、七尾市名誉市民の実業家である池田文夫氏が生前に蒐集した美術品コレクションのことです。

池田文夫氏は明治四十年（一九〇七）七尾市に生まれ、福井高等工業学校（現福井大学工学部）で紡績を学びます。そして戦後間もない昭和二十三年（一九四八）に岐阜県大垣市で和興紡績株式会社を設立、以後同地を拠点に中部地方きつての経済人として幅広く活動し、同六十二年に八十歳で没しました。氏は化学繊維紡績業界の発展に大きな足跡を残すかわら、拠点の大垣市や出身地の七尾市に対して多大な支援を行ない、そ

の振興に貢献しました。

一方で、氏は若い頃より美術品に対して大きな愛着を持ち、生涯にわたって多くの優れた作品を求めました。その熱心さは、結婚間もない頃に買ったばかりのボーナスを全てつぎ込んで作品を購入し、奥さんを呆れさせたというエピソードにも表れています。

そうやって氏が蒐集したコレクションは、古い時代から現代までの様々な時代における日本美術から西洋美術までの広範囲にわたり、絵画や書、彫刻、工芸品など幅広い分野におよんでおり、その見識の高さを物語っています。

そして氏の没後、昭和六十三年にご遺族より七尾市に対してそのコレクションより一二五点が寄附されました。当時七尾市にはそのような作品を展示する施設はなかったことから、これを契機に市内で美術館を建設しようという機運が高まり、平成七年の当館開館となったわけです。

「池田コレクション」はその後もご遺族より追加の作品ご寄附を頂き、現在計一七〇点となっています。当館では開館以後、美術館の「生みの親」ともいえる「池田コレクション」の展示を定期的にを行い、各作品をこれまで紹介してきましたが、今回も工芸品・絵画・彫刻といった様々な作品五十七点を紹介予定です。

＜主な出品作品紹介＞

「池田コレクション」は茶道美術品を中心とした日本美術のコレクションであり、池田文夫氏が拠点とした岐阜県及び、出身地である石川県ゆかりの作品が多く含まれています。その内容は「志野」「織部」や「楽」などの陶磁器を中心とした茶道具をはじめ、肉筆浮世絵や近現代の軸装日本画といった絵画、近現代の木彫作品など、とてもバラエティ豊かです。

本展出品作品より四点を紹介します。

①陶磁器「織部梅画角台付向附」 江戸時代制作

四角い器に描かれているのは梅の木？網？？
まるで現代の抽象作品をみるような不思議な上絵が描かれ、緑色の釉薬が一筋二筋ほど薄くサラリと施されています。

織部焼は桃山〜江戸時代前期頃にかけて、現在の岐阜県美濃地方で制作されたやきものです。いずれも自由奔放な形や文様などが特徴で、これらのデザインを考えた当時の名もなき職人たちの斬新な感覚には脱帽です。

②金工「波に兎図紋章散鐙」 江戸時代制作

鐙とは馬に乗る時の足を踏み支える馬具です。作品のいたるところ、裏側や小さな部品までに、細かな兎や波の文様や家紋、柳図などが隙間なくぎっしりと、象嵌の技法によって表されており、とても優美です。

江戸時代に加賀藩は本作品のような象嵌技法を駆使した鐙（これらは「加賀象嵌鐙」と呼ばれます）を盛んに制作し、そのクオリティの高さから大名間の贈答品や献上品として珍重されました。



①



②

③浮世絵「美人蚩狩図」 江戸時代制作

涼やかな着物を着た女性二人が、宙に舞う二匹

の蚩を追う様子を描いた肉筆浮世絵で、特に手前の童女が棒の先に団扇をくくりつけて一生懸命になっている姿には微笑ましいものがあります。

肉筆浮世絵は版画に比べて一点制作であるために高価ではありますが、その分手描きならではの細やかな描写と柔らかな色彩が特徴で、いわば「高級浮世絵」として流行しました。



④日本画「溪橋雨後図」 川合玉堂

雨上がりで空が明るんできた何処かの山中、やや水かさを増した溪流に架かった小さな橋を、薪を背負った女性がゆっくり渡っています。新緑の木々は水分を得て生き活きと茂り、爽やかな空気と木々の香りが画面から漂ってきそうで、観ていると心がリフレッシュされそうな作品です。

川合玉堂は愛知県出身で、伝統的な日本画技法に西洋絵画の空間表現を加えた独自の技法で、四季折々の日本情緒溢れる風景を描きました。



◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	280円	350円	280円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「モントレイ・ジャズ・フェス

ティバル・ポスター展」

7月22日（水）〜26日（日）

◆第三展示室

七尾市の姉妹都市であるアメリカ合衆国カリフォルニア州モントレイ市は「世界三大ジャズフェスティバル」の開催地として知られています。

平成元年にモントレイ市と七尾市和倉温泉観光協会がジャズを通しての友好を目的に「モントレイ・ジャズ・フェスティバル（MJF）イン能登」はスタートしました。以来、毎年継続し、今年七月二十五日（土）に七尾マリンパークで開催されます。これにあわせ、平成八年にモントレイ市より七尾市・和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合に友好の記念として贈られたMJFポスター五十点を展示・紹介します。このポスターは、アメリカの作家EARL NEWMAN氏が一九六三年から九五年までの間に、著名なジャズ・プレイヤーの演奏する



1971年「Satchmo」



1987年「BB King and Ray Charles」

ジャズの世界を色鮮やかに、そして躍動的に表現した作品を、この機会に是非ご堪能ください。

※観覧料は「池田コレクション名品展」と共通料金です。

市民ギャラリー展覧会案内

第14回七尾日創展

7月9日(木)～12日(日)
但し、初日は午後1時から
最終日は午後4時まで

公募により県内外から出品された日本画を中心とする絵画約60点を展示します。風景、花鳥、人物、具象から抽象まで、さまざまな個性あふれる作品をお楽しみください。

入場料 無料

主催 日創会(代表 丹羽俊夫)

連絡先 三宅厚史

☎0767(77) 1368

七尾港まつり協賛

第15回七尾美術作家協会展

7月18日(土)～20日(月・祝)

最終日は午後4時まで

七尾港開港110周年を記念し、会員83人が、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真の6部門にわたり近作を展示発表するもの。4月に開催した等伯子ども写生大会の優秀作品を併設展示します。

入場料 無料

主催 七尾美術作家協会

連絡先 加地 求(洋画)

☎0767(52) 1613

アートホール催し物案内

第7回石川県NOTOピアノコンクール

課題曲による公開レッスン

7月12日(日)

開演 午後1時30分

8月8日(土) 9日(日) に行われるピアノコンクールの課題曲による公開レッスンです。講師は桐朋学園大学付属音楽教室講師の辻井雅子先生(同コンクール実行委員長)です。

入場料 1,500円

主催 石川県NOTOピアノコンクール実行委員会

連絡先 同実行委員会事務局(ミヤコ音楽堂内)

☎0767(53) 0001

北嶺中学校フルバンド部

第28回定期演奏会

7月19日(日)

開演 午後1時30分

サクソフオン4名、パーカッション2名、キーボード1名の合計7名による演奏です。今年度は地域の方々のゲスト出演もあります。どうぞご来場ください。

入場料 無料

主催 七尾市立北嶺中学校

☎0767(58) 1213

第7回メロディーパレット

8月2日(日)

開演 午後1時

一部は3歳から大学生までの生徒によるピアノ演奏、二部では「絵・お話・音楽」と題し、くるみわり人形を演奏します。日頃の練習の成果を発揮し、一人一人個性ある演奏をどうぞお聴きください。

入場料 無料

主催 石田ゆかり門下生

連絡先 石田ゆかり

☎0767(53) 4628

オランダの風

9月11日(金)

開演 午後7時

古楽が盛んなオランダ在住の三橋桜子によるチェンバロ演奏に加え、アルゼンチン人作曲家パブロ・エスカンデによる編曲作品を紹介いたします。息の合った二人のピアノ連弾もお楽しみ下さい。

入場料 一般

高校生以下 1,000円

ペアチケット 3,000円

連絡先 所司育代

☎0767(53) 6461

アートライフみつはし

☎075-752-3814

第11回ピーチエコンサート

9月12日(土)

開演 午後2時

ピアノとフルートの発表会です。

独奏や連弾など、楽しく演奏できればと思います。今回は、トロンボーン奏者の丸山彩さんをゲストに招いての発表会となります。

入場料 無料

主催 松本佐智子・古川かおり・池田孝子門下生

連絡先 ☎090-3885-0061

七尾市健老大学講座

音楽鑑賞と手品発表

9月15日(火)

開演 午後1時30分

懐かしい唄をピアノやフルートの演奏で楽しんでいただく音楽鑑賞と、手品の実演です。

入場料 400円

主催 七尾市生涯学習課

☎0767(68) 6595

石川県七尾美術館友の会の皆さまへ

ぜひ「開会式」にお越しください♪

『長谷川等伯展』開会式レポート

来年(平成二十二年)は、長谷川等伯没後四〇〇年という節目の年にあたることから、当館では「生誕地・没後400年記念前年祭」を冠に『長谷川等伯展』信春から等伯への軌跡』を開催。四月二十四日には等伯生家の菩提寺である本延寺(七尾市)で、長谷川等伯顕彰大法要、大鼓奉納、記念茶会なども行われました。その後、引き続き当館で京都・本法寺御貫首の大塚日行様、長谷川等伯画系後裔である日本画家・仲春洋様ほか来賓の方々や美術館友の会会員さんを含む招待者をお迎えし盛大に開会式が執り行われました。なかでも能楽囃子鼓奏者の大倉正之助様による大鼓演奏は素晴らしく、幽玄かつ力強い響きが会場を包み込み「古典芸能と美術の融合」を体感したひとときでした。出席した友の会会員さんからは「迫力ある鼓演奏に感銘を受けた」との感想をいただきました。



テープカット後展示室へ

今後の友の会会員特別展開会式ご招待は『山下清展』(八月一日)、『ボローニャ展』(十一月六日)の二回です。お越しになられていない会員さんは、ぜひ一度、開会式をご覧になってみませんか? ※今回、当館会員にのみ『山下清展』開会式特別招待券を同封しております。



素手打ち大鼓の迫力!

第10回 石川県七尾美術館友の会

「鑑賞の旅」のご案内

参加者大募集!

今回は、東海北陸自動車道全線開通一周年を記念して愛知・名古屋方面へ行きます。鑑賞するのは名古屋博物館で開催の『山無相大師六五〇年遠諱記念特別展「妙心寺」展』と愛知県陶磁資料館で開催の『志野・黄瀬戸・織部のデザイン』展です。

『妙心寺』展では本山妙心寺をはじめ山内の塔頭寺院、全国の妙心寺派寺院の宝物が一堂に展示されます。関山道号筆の国宝「宗峰妙超墨蹟」や如拙筆の国宝「瓢鮎図」などが出品される予定です。もうひとつの展覧会『志野・黄瀬戸・織部のデザイン』展は焼きもののまち・瀬戸市にある同資料館ならではの特別企画展で、当館所蔵品「池田コレクション」の陶磁器も出品されます。

どちらの展覧会も担当学芸員がご案内してくださるのでより深く鑑賞できます♪皆様からのお申込みをお待ちしております。

◆日程 10月25日(日)【貸切バス利用】午前6時出発、午後7時頃帰着。〈日帰り〉

◆見学予定地 (愛知県) 名古屋博物館、愛知県陶磁資料館など

◆参加費 9,500円

※バス代・見学科・昼食代・旅行傷害保険料込。

友の会会員以外の方は、右記参加費に1,000円加算となります。

◆募集定員 先着25名(対象は原則として成人)

◆申込開始日 7月18日(土)

◆申込方法 参加費をご持参のうえ、当館受付までお越し下さい。

新コーナー(不定期掲載) 美術館スタッフのひそひそ話

「展示室が暗いのは…」

今回より新スタートのこのコーナー、美術館スタッフがそれぞれの視点から、美術館のことなどについて思うことを紹介する、というものです。さて、第一回目となる今回はやはり当館らしく「長谷川等伯展」についてです。

既にご存知の方も多いとは思いますが、長谷川等伯は七尾が生んだ大画家であり、当館では毎年「長谷川等伯展」を開催、今年も去る五月末に会期を無事に終了いたしました。

さて、会期中は様々なご意見・ご質問を頂戴しますが、中でも多いのが「会場が暗い」ということです。暗いと作品が見えないというのはもったいですが、これには「作品保護」という重要な理由があるのです。

光(照明)を当て続けると作品は劣化します。それは光の強さに比例しており、明るい光であるほど顕著です。もともと陶磁器のように光に強い種類もありますが、等伯作品のような絵画は光に対してとてもデリケートです。ましてや等伯の場合、四〇〇年以上も昔の作品であり、ただでさえ弱くなっています。

従って作品劣化を最小限にして観てもらうために会場を暗くしているのであり、これは等伯展に限らず古い作品の展覧会には同様です。作品は皆様に観てもらうことと共に、大切に保護し後世に伝えるのも重要なことなのです。

ですから皆様にはこのことをご理解下さったうえで、等伯をはじめ、色々な展覧会で名品の数々をご鑑賞頂ければと思います。





これからの展覧会予定



◆第1・2 展示室

「秋の所蔵品展」

10月2日（金）～25日（日）

当館所蔵品展「秋版」で、2テーマで各作品を展示します。

テーマ①「水墨画あれこれ」では、禅宗絵画として中国より伝来し日本において独自の発達を遂げ、墨によって展開される独特の深遠世界で現在も多くの人々を魅了している水墨画の作品を紹介します。

テーマ②「女性を表現する」では、洋の東西を問わず「美」を象徴するモチーフとして太古より様々な姿で表されてきた女性を題材とした作品を、絵画や彫刻などを通して紹介予定です。

「鍾馗図」 富田溪仙(池田コレクション)



◆第1・2・3 展示室

「2009 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

11月6日（金）～12月6日（日） 会期中無休

毎年、ボローニャで開催される絵本原画コンクールには世界中から応募があります。本展では同コンクールより20カ国81名の個性豊かな入選作品を紹介します。また、特別展示は「小さなノーベル賞」とも称される国際アンデルセン賞において、2008年の画家賞を受賞したロベルト・インノチェンティ（イタリア）です。印刷された絵本からは感じるることのできない原画の魅力をお楽しみください。会期中、絵本アニメ上映会や絵本作り子どもワークショップも開催します。



「新年」イーゴリ・オレイニコフ(ロシア) (『年獣』より)

◆第1・2 展示室

「冬季・所蔵品展」

12月11日（金）～平成22年1月31日（日）

当館所蔵品展「冬版」で、2テーマで各作品を展示します。

テーマ①「いろいろな茶道具」では、流派・好みなどによって様々なバリエーションがあり、道具の数だけ見どころがある茶道具を、茶道美術品が充実している「池田コレクション」を中心に紹介します。

テーマ②「はたらくひとびと」では、見る者の心を打つテーマとして様々な形で表現されてきた、人々が一生懸命労働に従事する姿を表した絵画や彫刻、工芸品などを紹介予定です。



「志野山水人物図中鉢」
(池田コレクション)



割引、プレゼントなど特典いろいろ / ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バスまりん号
……JR七尾駅前「ミナ、クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館前」下車
なおコミュニティバスぐるっと?
……JR七尾駅5番乗り場から西コース「小丸山台1丁目」下車

休館日のお知らせ

(7月～9月)

◆7月 1、2、6、13、21、27～31

◆8月 無休

◆9月 28～30

◎次号・第59号（秋号）は10月1日発行予定です。